



白石市「幼保小の架け橋プログラム」だより

なないろのかけはし

令和6年10月31日発行

第1回 保育体験研修をしました！

本市では「幼保小の架け橋プログラム」の取組の一つに体験研修を位置付けています。この研修は年2回（7月と1月）、次のような目的で各小学校の先生方が各園に出向き一日体験を行っています。

保育体験研修の目的・内容	
7月	小学校教員が幼稚園・認定こども園・保育園の保育を一日体験します。環境を通して行う幼児教育の内容や幼児の姿を把握し、スムーズな接続の在り方を考える機会としていく。
1月	小学校教員が幼稚園・認定こども園・保育園の保育を一日体験します。7月からの幼児の姿の変容を捉えながら、入学予定児の実態などを把握することで円滑な接続の一助としていく。



この体験研修は2年目となり、市内の各園・各小学校間で話し合える関係づくりも構築されてきました。研修後には、幼保小の合同研修会を実施して、主として5歳児の姿や環境を通して行う幼児教育についてなどの情報交換を行っています。

【体験を受け入れた園の感想】

○実際に保育を見てもらうことにより、取り組んでいることへの理解を深めてもらうことができました。園児のできることが多いことを知ってもらうことができました。

○小学校の先生方に園児が活動をほめてもらうことで意欲を高めていました。また、園児が小学校の話聞いて期待感を高めていました。

など、研修が園にとっても有意義であることが分かりました。その他、合同研修会で特に話題になったことが2つありましたのでお知らせします。

① 「幼保で体験したこと・できたこと」をスタートカリキュラムで生かしていくには…



○ 園児に対する声がけ

「調べてみたらどうかな?」「どうやったらいいと思う?」

「どうしてみたいの?」などと問い返し、自分の考えを言葉にして話すように促したり、自己決定をさせるために支援したりする機会を大切にしている。

○ 小学校で発展的に教材に生かす

感触を楽しむ活動を図画工作科で意識して取り入れる。

視覚的な工夫を行い、数（数字）を意識させている。

全身を使ったリズム遊びは、リズム感や協調性、体力づくりにつなげていくことができる。

② 学びの「環境の構成」を生かしていくためには…

- 安心して活動できる環境の構成
スケジュール表の活用、アナログ時計とデジタル時計の活用など、園児が時間や見通しをもてるよう、活動の流れを視覚的に分かりやすくなるような工夫を行っている。
- 子供たちのために環境の構成を「考える」「整えていく」を大切にする
「環境から子供たちの活動が広がっていくようにする」点を大切にする。
幼保小の接続にあたって小学校がより意識していきたい。



「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」(10の姿)

- 健康な心と体 ○自立心 ○協同性 ○道徳性・規範意識の芽生え ○社会生活との関わり
- 思考力の芽生え ○自然との関わり・生命尊重 ○数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚
- 言葉による伝え合い ○豊かな感性と表現

◆体験研修に参加した小学校の先生方のアンケートから

当日の保育に携わって、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の中で特に意識して取り組んでいると感じた10の姿の項目について回答してもらいました。

10の姿全てが意識されているとの結果になりましたが、その中でも「自立心」「協同性」「言葉による伝え合い」「豊かな感性と表現」がとても意識されているとの回答が多くありました。もちろん当日の活動内容にもよりますが、昨年度のアンケートでも体験した多くの教員が「自立心」を育てることを意識していたと回答しています。

本市の「架け橋プログラム」で目指している子供の姿から「自立心」「協同性」「豊かな感性と表現」を各園では特に重要視していることが分かりました。

【 架け橋期に目指す白石市の子供の姿 】

- 自分から進んで周囲の事物や他者と関わり、様々な経験をする子供 **【自立心】**
- 友達と共感しながら育ち合う子供 **【協同性】**
- 様々な環境に関わる中から豊かな感性が生まれ、いろいろな表現で伝えようとする子供 **【豊かな感性と表現】**

11月には今年度2回目の小学校体験研修を予定しています。園の先生方が子供の姿を見て、小学校がどのように教育活動を進めているのかを肌で感じる機会となります。卒園児の小学校での成長の姿や生活科などの授業を参観・支援し、アプローチカリキュラムや今後の交流のねらいや内容等について情報交換を行います。次回の「なないろのかけはし」では小学校体験研修について皆さんにお伝えします。